IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門（D部門）ニュースレター 2017年1月号 (<http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/nl/>)

仕事に役立つ「コト」指向 ～部門長としての2年～ To Provide Useful Experience for a Development

電気学会 産業応用部門 前部門長

大山 和伸（ダイキン工業）

Kazunobu Ohyama (Daikin Industries)

Former President, Industry Applications Society, IEEJ

1987年1月に産業応用部門誌の第1号が発行されてから30年、D部門がやらずして....の気概で、歴代部門長のリーダーシップのもと、様々な先進的取り組みがなされてきた。本稿では、部門長としての2年間の活動を振り返り、今後の部門価値向上に向けた取り組みへの期待を述べたい。

学会発表をしない人にとって、会員であるメリットは少ない。サイレントマジョリティが有用と感じる仕事に直結した情報や交流の場の提供が重要である。これが、2014年8月に開催したD部門若手意見交換会の要望である。一方、2014年7月のニュースレターに部門長就任の挨拶として、以下の3つを重点に取り組むことを述べた。

1. D部門英文論文誌の充実
2. シンポジウム・研究会の充実
3. 技術報告のタイムリーな発行

振り返ると、これらは既に学会活動に積極的な人を対象とした魅力度向上策のように見える。

学会が発展して行く上で、サイレントマジョリティに対する取り組みが弱いことは明らかである。特に、企業の若手が電気学会に入りたくなる魅力的な企画を早急に立ち上げなければならない、との思いから2014年12月、新たに2つの取り組みをスタートした。

4. ホームページ（HP）リニューアル若手WGの発足
～サイレントマジョリティ目線に立ったD部門HPの革新～
5. 産業応用フォーラム「ものづくり道場」の企画
～パワエレ道場、モータ道場、メカトロ道場～

HP革新については、ニュースレター2016年8月号「会員に有益なHPの構築を目指して」に詳しく述べられている。若手WGの柔軟な発想により、従来とは全く異なるレイアウト・内容となった。まだ工事中のものもあるが、サイレントマジョリティ目線での有用な情報が多く掲載されているので、お気に入りへの登録と、非会員の方々へのPRをお願いしたい。（<http://www.iee.jp/ias/>）

一方、ものづくり道場企画のきっかけとなった若手の生の声は、以下のようなものであった。

- ・就職すると他社の技術者や大学の先生方との交流が薄くなるので、学会に交流機能の充実を期待する。
- ・講習会＋交流会だと参加する意義が高まる。加えて、権威の方と交流できると参加率が高くなる。
- ・テクノフロンティアなどのように開発のプロセスがわかる情報もほしい。

やるからには、電気学会ならではの魅力ある大きな企画を行い、参加する若手間に強い絆と、高い志が生まれることを期待したい。さらに、新入会員増と退会防止を狙い、参加資格を会員限定とすることで、5～10年でD部門会員を数百名規模で増やしたい、と考えた。

ものづくり道場第一弾として、2015年6月に開始したモータ道場は、モータのエキスパートによる年間5回、計10日にも及ぶ大講座となった。著名な方々による基礎講座とエキスパートを交えての懇親会。モータを支える金型・巻線機・磁石・電磁鋼板・銅線メーカ、さらに、モータメーカ、大学研究室の見学と現地講座を行い、若手意見交換会の要望に十分応える内容になったものと思う。第二弾として、同様の構成で2015年11月にパワエレ道場を開始。2016年度には3道場が整い、パワエレ・モータ道場と、博士課程の学生・若手教員・ポスドクを対象としたメカトロ道場を実施中である。2年間で109名の参加を得、道場を機会に45名もの若手が会員になった。こちらも、狙い通りの成果をあげたものと考ええる。

D部門価値向上に、英文論文誌のSCI登録は欠かせない。また、学会活動を積極的に行っている人やこれから行おうと思っている人が活動しやすくなるよう、和文論文誌、部門大会、研究会、技術報告の充実も不可欠である。さらに、今回の取り組みに加えて、企業活動の国際化に応えるサイレントマジョリティ目線での新たな企画（国際会議に併せた交流ツアーや英語HP革新など）や、新進会員活動委員会による学会全体への広まりを要望する。これにより、電気学会員が増え、会員のみなならず事務局が生き生きと働ける学会になることを期待したい。